

411.1  
u

No. 4088 1911 3

u 3

運氣論與算法俗解卷之下

貞菴 香月啟益牛山甫 纂述

▲十九年七閏之算法

氣盈朔虛ノ數ヲ合セテ十日零八十八刻ヲ

十九ツムトキハ

二百零六日七十二刻トナル

一月ノ定數二十九日五十三刻ヲ七箇月ノ

分ツムトキハ

二百零六日七十一刻トナル

富士川文庫 213



F 2  
ウ-5

此一月ヲ七積タル數二百零六日七十一刻  
 ヲ以氣盈朔虛ノ數合セテ十日零八十八刻  
 ヲ十九年ノ分積タル數二百零六日七十二  
 刻ノ内ヲ引トキハ  
 一刻タラズ

右ノ一刻ノ不足ヲ補フニ秘傳アリ按スル  
 ニ前ノ小ノ月二十九日五十三刻ヲ十二合  
 スルニ今一刻タラス二分四厘ノ内ヲ二分  
 三厘五毛ヲ引テ一刻ト定メテ其一刻ノ不  
 足ヲ補ヒタルアマリノ數五毛アリ  
ト月ト日  
ト會ス

ル算ノ内ニ見ヘタリ此五毛ノアマリヲ十九年積ト

キハ九厘五毛トナル

右ノ九厘五毛ヲ以月法ノ一刻二分三厘五  
 毛ノ内ヲ引トキハ

一分四厘タラズ  
 右ノ一分四厘ヲ補フニ秘傳アリ按スルニ

前ノ月ト日ト會スル算法ノ内ニ記ス如ク  
 二月ト日ト會スル毎ニ毎月二厘ノ零アリ

故ニ一月二十九日五十三刻ニモ又二厘ノ



零アリ此二厘ノ零閏月七箇月ノ分ツムト  
 キハ  
 一分四厘トナル  
 右ノ一分四厘ヲ前ノ五毛ヲ十九年ツミタ  
 ル数九厘五毛ニ加<sup>ル</sup>トキハ  
 二分三厘五毛トナル  
 右二分三厘五毛ハ即月法ノ一刻ナリ此一  
 刻ヲ加<sup>テ</sup>前ノ七月ノ閏ノ一刻ヲ補フトキ  
 ハ  
 二百零六日七十二刻トナル

右即十九年ノ全數二百零六日七十二刻ニ  
 合スルナリコレヲ十九年ニ七閏シテ氣朔  
 ノ分齊シト云フナリ

○運氣論劉溫舒說之算法

▲本文ノ大率月行疾速終<sup>リ</sup>以<sup>テ</sup>二十七日月行一周  
 天<sup>ス</sup>

右劉溫舒ノ說八日行ヲ遲シト五月行ヲ速  
 ナリト云ル故ニ素問ノ本說トハ異トイヘ

此算法ハ前ノ素問ノ本説ノ月ト天ト會  
スル算ト同格也可互考

▲本文ノ是將十三度及十九分之七數總之則計  
行天三百八十七度有奇ノ算法

天度ノ定數 三百六十五度四分度之一 一度

九分十リ四分度ノ一  
ハ四分七厘五毛十リ

晝夜百刻 行天ハ天度ヲ一周ス○日ハ天度ヲ  
行ク事一度○月ハ天度ヲ行ク事十三

度零七分十リ

晝夜百刻二月ハ天度ヲ行事十三度零七分  
日ハ天度ヲ行事一度十リ二十九日五十三

刻零二月十日十會ス日ハ二十九日

二十九日ニ 三百八十七度十三分

▲本文ノ月已先行一周天三百六十五度外又行

天之二十二度ノ算法

右二十九日ノ數三百八十七度十三分ノ内

ヲ天度ノ三百六十五度四分七厘五毛ヲ引

ハ天度ニ行過ル事二十二度零八分二厘五

毛十リ

▲本文ノ反少七度而不及日也ノ算法

日之行天度定數 一日一度 十日二十度二十  
日二十度三十



日二三  
十度也

本右日行二十九日ノ數二十九度ヲ以右ノ月  
 行二十九日ニ又行天之二十二度零八分二  
 厘五毛ノ數ヲ引トキ八月行ノ數反テ日行  
 ノ數ニ不及事  
 六度十分零七厘五毛ナリ  
 天右本文ニハ大數ヲアゲテ反テ少事七度ト  
 本云リ委クツモレハ六度十分零七厘五毛ナ  
 二リ  
 月行天度ヲ過事二十九日ニ二十二度八分

二厘五毛

右ニ五十三刻ノ數六度十三分

即十三度七分ノ半分也

ヲ加レハ

二十九日五十三刻ニ二十八度二十一分二厘五

毛

二十分ハ一度三分

右ニ三刻ノ數七分六厘二毛

一刻ニ二分五厘四毛加

二十九日五十三刻ニ二十九度零九分八厘七

毛

右二十九日五十三刻ノ數ナリ

日行天度ヲ行事二十九日ニ二十九度

右ニ五十刻ノ數九分九厘即半度ヲ加レハ

二十九日五十刻ニ二十九度九分五厘

右ニ三刻ノ數五厘七毛一刻ニ三厘九毛ヲ加レハ

二十九日五十三刻ニ二十九度十分零七

毛

右二十九日五十三刻ノ數ナリ此數ノ内右

ノ月行ノ數二十九度九分八厘七毛ヲ引

キハ二厘殘ルコトヲ零ト云フ

零ニ厘ニ厘ノ數六厘十三分

右二厘ノ算法前ノ本說ノ算ト同格也可互

考

▲月ト日ト會スル算法

天度ノ定數三百六十五度四分度之一一十九度八

也四分度ノ一ハ四分七厘五毛

晝夜百刻ニ○日ハ天度ヲ行ツクス也○月ハ天度ヲ行フ事三百五十二度十六分

七厘五毛ナリ

晝夜百刻ニ日ノ天度ヲ行事三百六十五度

四分七厘五毛ノ内ヲ月ノ天度ヲ行三百五

十二度十六分七厘五毛ヲ引八月ノ日ニ

久ル事晝夜百刻ニ十二度零七分也二十



九日五十三刻零ニ三百六十五度四分七厘五毛ヲクレテ月十日ト會ス

月ノ日ニヲクル、定數一日ニ十二度七分

分一度八十九分十リ百刻ニ三十三度五分

十日百二十度零七十分七十三分八三度

二十日ニ二百四十三度八十三分八十分六四

三十日ニ三百七十度零二十分二十分六十一度

右三十日ノ數三百七十一度零一分ノ内ヲ

日行ノ數三百六十五度四分七厘五毛ヲ引

ハ却テ日行ノ數ニ過事五度十五分二厘五

毛ナリ故ニ三十日ノ數三百七十一度零一

分ノ内ヲ一日ノ分十二度零七分ヲ引テ二

十九日ニスレハ三百五十八度十三分

二十九日ニ三百五十八度十三分

右二十九日ノ數三百五十八度十三分ヲ以

日行ノ數三百六十五度四分七厘五毛ヲ引

ハ又日行ノ數ニ夕ラザル事六度十分零七

厘五毛ナリ故ニ二十九日ノ數ニ又半日五

十刻ノ數六度零三分五厘即十二度七分

分ノ半分也ヲ加

テ二十九日五十刻ニスレバ  
 二十九日五十刻ニ三百六十四度十六分五  
 厘入日計ハ一  
 右二十九日五十刻ノ数三百六十四度十六  
 分五厘ヲ以日行ノ数三百六十五度四分七  
 厘五毛ノ内ヲ引ハイタ夕日行ノ数ニ夕ラ  
 ザル事七分二厘五毛十リ故ニ二十九日五  
 十刻ノ数ニ又三刻一刻ハ二分ノ数七分零  
 五毛ヲ加テ二十九日五十三刻ニスレバ  
 二十九日五十三刻ニ三百六十四度二十三

分五厘五毛 二十分ハ一  
度零一分也

右二十九日五十三刻ノ数三百六十五度零  
 四分五厘五毛ヲ以日行ノ数三百六十五度  
 四分七厘五毛ヲ引バ日行ノ数二厘殘ルコ  
 レヲ零ト云  
 零二厘一刻ハ二分三厘五毛十リ一刻ヲ十二  
ニワレバ一厘九毛五絲八忽餘ナリ  
 右如此ニ一月ニ二厘ノ零アリ此二厘ヲ十  
 二月分ツトキハ一年ニ二分四厘ノ零ア  
 リ此二分四厘後ノ補数ニ五九  
 月之一年之定數三百五十四日三寸七刻



右ノ定數ハ小ノ月二十九日五十三刻ヲ十  
 二合セタルモノナリ今此二十九日五十三  
 刻ヲ十二合スレバ一年ニ合四厘ノ數ナ  
 三百五十四日三十六刻ノ數ナリ此二厘ノ十  
 右三百五十四日三十六刻ヲ月ノ一年ノ定  
 數三百五十四日三十七刻ニ比スレバ一刻  
 ノ不定アリ此一刻ノ不足ヲ補フニ秘傳アリ  
 按スルニ二月法ノ一刻ト云ハ三厘五毛ナリ  
 此二分三厘五毛ニ立ル數ニハ右ニ記ス所  
 ノ二厘ノ零ヲ十二月ツミタル數二分四厘

事ノ内ニテ二分三厘五毛ヲ引月法ノ一刻ト  
 定メテ右ノ一刻ノ不足ヲ補フ也如此二分  
 三厘五毛ヲ引バ又六十合ニ合スル數ナリ  
 五毛ノ數ナリ此五毛ハ閏月ノ補數ニ立ルナリ閏月ノ算  
 法ト可互參考云云

運氣論與六化差三十度而有奇之算法。

經曰差三十度而有奇

經ハ素問六元正紀大論ナリ玉冰ノ註ニ有奇  
ヲ八十七刻半ト云ヒ新校正ニハ八十七刻半  
ヲアヤマリトシ四十三刻四十分刻ノ三十ト  
セリ張介賓ノ類經ニハ四十三刻七分半ト云  
ヒ通書ニハ四十三刻又六十分刻ノ四十五ト  
アリ右玉冰ノ説アヤマレリ餘ノ三説ハ同シ  
事ナリ四十三刻十二分ノ九ト云テモ同シ四

十三刻四十分刻ノ三ト云テモ同シ事ナリ八分  
刻ノ六ト云テモ同シ經ニ所謂差三十度ニノ  
有奇トハ三百六十五日二十五刻ヲ十二ニワ  
リタル數ナリ即ニ氣ノ數ナリハ八分六十分  
算法三百六十五日二十五刻ヲ實ニ置テ十二  
ヲ法トシテワレバ三十日零四十二刻トナリ  
不盡九アリ此ヲ十二ニテワリツムレバ七分  
半トナル即類經ノ云所ナリ但數ヲワリツム  
レバホコリアルモノナリホコリスタリテ源  
ニアハズ算モ俗ニシテキタナキ故ニワリツ

運氣算法俗解卷之下



メズシテ分母分子ニシテ十二分刻ノ九ト云  
テヲクナリ十二分ヲ分母ト云ヒ九ヲ分子ト  
云フ一刻ヲ十二ニワケタル九分ト云ハ心ナリ  
如<sub>レ</sub>此書付テヲケバ何時モ九ヲ十二ニワリテ  
ミレバシル、ナリ又法實共ニ三ツニツバメ  
テ四分之三ト云テモ同シ事ナリ三ツヲ四ツニワ  
ルモ亦七分半ナリ又一倍シテ八分之六ト云  
テモ同シ又十倍シテ四十分刻ノ三十ト云テ  
モ十五倍シテ六十分刻ノ四十五ト云テモ同  
シ義ナリイツレモ分母ヲ以テ分子ヲツ、ムレ

ハ七分半トナリ或ハ百二十分ヲツモリニシ  
テ類經ノ説ヲアヤマリト云ハ非也一刻ヲ百  
二十分ト云ハ一日ヲ百刻ニワカツユヘニ一  
時ハ何刻カト云トキ百刻ヲ十二時ニワレハ  
八刻百二十分刻ノ四十分ナリ然<sub>レ</sub>ヲ分母ノ十  
二ヲステ只八刻四十分ト云ユヘニ一百二十  
分ニテ一刻トナル也實ハ一時ノ類八刻三十  
三分三厘餘ナリワリツムレハ加様ニホコリ  
出來テ其下ハスタリテ本ニアハズ故ニ分母  
分子トナシテ百二十分刻ノ四十ト云テ置<sub>ク</sub>十

リ宣明曆ニ云所ノ秒八ヲ小餘ノ一ナスルモ  
八分ノ一ナルユヘナリ一刻ヲ百二十分トス  
ル事モ八分ノ一ナルユヘ也一刻ヲ百二十分  
トスル事八月ノ十三度十九分度之七トアル  
ヲ以一度ヲ十九分ト云ト同ジ失ナリ十九分  
之七四分度之一百二十分刻之四十時ニトリ  
テ分母分子ヲ以名付タルナリ之分齊同ハ算  
ヲ開ノ庸戸シラズンバアルベカラズコレヲ  
シラザルガ故ニ惑ヲ生スル也

運氣論與太陽直日之算法

今所謂察日者乃七曜之名號以太陽直日則日密  
是隨日宿而言也

言心ハ今時云トコロノ密日トハ七曜ノ中太  
陽ノ直日也故ニ乃七曜ノ名号ト云フ七曜ト  
ハ日月火水木金土ノ七ナリ太陽ハ日也直ハ  
アタルト云心ナリ太陽ノ直日トハ七曜ノ中  
日曜ニアタル日ヲ云ナリ  
按スルニ曆書ニ年宿月宿時宿アリコレ七元  
甲子ノ法ナリ今運氣論與ノ本文ニナキコト



ナレ其法ヲ考へ左ニ記シテ後學ニ示ス七  
 元甲子ノ算法諸ノ曆書ニ出ルトイヘ凡未<sup>タ</sup>議  
 吾友和田三柳氏ト云者アリ七元甲子考要ト  
 云書ヲ著ス今此書ニヨリ略<sup>ホ</sup>鄙<sup>ヒ</sup>意ヲ加テ其算  
 法ヲ著ス事如左  
 年禽ハ六十年ツ、一元二元トカゾヘテ四百  
 二十年ヲステ明ノ嘉靖四十三年中元甲子ノ  
 歲虛日鼠太陽直年ヲ以曆元トス則 本邦  
 人皇百七世 正親町帝ノ永祿七年ニアタル  
 今貞享二年乙丑ニ至テ一百二十二年ナリコ

レヲ年禽ノ積年トス

▲算法

○積年一百二十一年

此永祿七年ヨリ貞享二年  
乙丑ニ至テノ年數ノ内初一

年ヲ減シテ積年トス一年コトニ  
一ヲ加ヘテ其年ノ積年トスル也

○元終四百

二十<sup>年</sup>コレ一元ヨリ七元マテノ  
ノ間ノ年數七元甲子ノ一終ナリ

○禽周二十八

メグリナリ

▲積年

ヲ置キテ元終<sup>四百</sup>ニ滿レハコレヲ去リア  
 リヲ禽積トス此一元ノ翌年ヨリ今年ニテノ  
 年數十リ四百二十年過レハ一元ニカヘル故  
 二四百二十年ヲ去ナリ四百二十年ニ滿ガル

間ハ去ニヲヨハズ假令ハ今年乙丑ノ積年一  
 百二十一年元終ニ滿ガレ故ニ其一ハ用也元  
 周<sup>六十</sup>ヲヨコレヲワバメ商ヲ算外ニ命ジテ  
 數トシ餘ヲ算外其年ノ支干トス譬ハ今年一  
 百二十一年直ニ元周ヲ除キ商ニツヲ得算外  
 ヲ元數トス商ニツアル故ニ三元トス空ハ一元  
 ニツハ三元トカゾフル也積年ノハジメヨリ六  
 十年ノ間ハ一元百二十年マテハ二元百二十  
 年ヲ過レハ三元ナリ不盡一ハ其年ノ支干十  
 リ空ハ甲子一ハ乙丑二ハ丙寅トカゾフル也

又ハ曆書ニアル所ノ紀法圖ヲ以シルヘシ今  
 不盡一ツ今年ハ乙丑ナリ禽積ヲ置禽周<sup>二十</sup>ニ  
 滿レハ去ナリ商ヲステ不用不盡ヲ其年ノ年  
 禽トスルナリ  
 羊禽ハ一元甲子虛日鼠ヨリ起テ二十八羊每  
 ニ本ノ虛宿ニカヘル故ニ禽周二十八ヲ以拂  
 ヒ去リアマ<sup>ル</sup>所ヲ虛ヨリカゾヘテ算外ヲ其  
 年ノ年禽トス  
 譬ハ今年ノ禽積一百二十一年二十八ヲ以コ  
 シヲ拂ヒ餘九虛ヨリカゾヘテ畢ニイタリテ



九十ナリ算外ヲ加へ嘴火猴ヲ今年乙丑ノ年禽  
トスルナリ  
○又上元中元下元ト云ハ百八十年ノ間ヲ上  
六十年ヲ上元トシ中六十年ヲ中元トシ下六  
十年ヲ下元トスルナリ嘉靖甲子ハ中元ニア  
タルナリ右ノ積年ヲ置キテ元應六十ヲ加へ  
元應トハ嘉靖甲子ハ中元ナル故ニ六十年  
ヲ加へ六十年前上元甲子ヨリノ数トス  
八十年ヲ以ノゾキ不盡ヲ元積トス元周ヲ以  
ノゾキ空ヲ上元トレ一ヲ中元トシニヲ下元  
トスル也

▲月禽之算法

○月周十二

一羊ハ十一月ナリ

○禽周二十八

前ニ記ス

月ノ星禽ハ太陽直年ノ正月ヲ角ヨリ起シテ  
次第ニカゾフル也積年ヲ置キ月周十二ヲ乘  
シ曆元正月今年正月ノ前月ニテノ月数トナ  
シ禽周ヲ以コレヲ除キ商ヲ捨テ不用不盡ヲ  
以算外ニ命シテ角ヨリカゾヘテ今年正月ノ  
星禽トス次第ニカゾヘテ其月ノ星禽トス  
譬ハ今年乙丑正月ノ星禽ヲ知ハ積年一百二  
十一年ヲ置テ十二ヲ乘シ一千四百五十二ヲ

得ルナリ禽周ヲ以コレヲツバメ餘ノ二十四  
角ヨリカソヘテ柳ノツギ星日馬ヲ今年乙丑  
正月ノ宿トスル也

▲旧禽之算法

○日ノ星禽ハ當曆ニヨラサレハ推事アタハズ  
今授時曆ニヨリテ算ヲ起ス

○積年一百二十一年上ニシル○歲實三百

六十五日二千四百二十五分コレ一年ノ○星

應三十八萬六千八百七十五分嘉靖四十四年○星

甲午ノ始トス此冬至ノ日ニサキ夕アコト  
十八日有奇ナリ一日ヲ一萬分ニツモル故ニ

三十八日ハ三十萬分ナリ有奇ナラフ六千八百七十五分アリ故ニ○元  
嘉靖四十三年九月十五日一元甲子ヨリ曆元冬至ニテノ數ナリ

終四百二十萬四百二十日ナリ一元ヨリ○元周六十萬甲子ヨリ甲

リ○日周一萬授時曆一萬分ヲ以○辰法一萬

サキニ注スヘシ○半辰法五千同上○刻法一千二百同上

○禽周二十八同上○積年ヲ置キ歲實ヲ乘シ則

曆元冬至ヨリ今年冬至ニテノ日數ノ分數ナ

リ星應ヲ加テ通積トスコレ曆元冬至ノ前一

元甲子ヨリ今年冬至ニテノ日分也元終ヲ以

コレヲ除キ不盡ヲ元積トス即チ七元ノ間ノ日

分ヲアルホド引去テアタリハコレヨリ先ノ



一元ヨリ今年冬至ニテノ日分ナリ元周ヲ以  
コレヲ除キ其商ヲ算外ニ命シ元数トシ不盡  
ハ日周ヲ以約之今年冬至ノ日ノ支干ヲ得即  
元周ヲ以除之不盡ハ甲子ノ後何年メトナル  
即甲子ヨリカゾヘテ算外ヲ用 譬ハ今年乙  
丑ノ積一百二十一年歳實ヲ以乘之四億四千  
一百九十四萬三千四百二十五分ヲ得星應ヲ  
加ヘ四億四千二百三十三萬零三百分トナル  
元終ヲ去商ヲ不用不盡一百二十三萬零分元  
周ヲ以コレヲ除キ商二即三元ナリ餘十三萬

零三百分冬至ノ前三元甲子ヨリノ百分也日  
周ヲ以コレヲ約メテ十二ヲ得即甲子ヨリカ  
ゾヘテ算外丙子ヲ得分秒發歛シテ冬至ノ時  
刻ヲ得ル發歛ノ法ハ授時曆ニ見ヘタリ今コ  
ノニ不贅 別ニ通積ヲ置キ禽周ヲ以コレヲ  
去商ヲ捨テ不用不盡ヲ用テ虚ヨリ起シテ算  
外ヲ命シテ冬至ノ日ノ星禽トス次第ニカゾ  
ヘテ毎日ノ星禽ヲ得ナリ

▲時禽之算法  
○時ノ星禽ハ太陽ノ直日子ノ時虚ヨリ起シテ

順ニ十二時ヲカゾフルナリ算法前ノ日禽ノ  
 算法ニ所謂元積ヲ置十二時ヲ乘シ太陽直日  
 ノ子ノ時ヨリ今日子ノ時ニイタルノ数ナリ  
 禽周ヲ以コレヲ除キ不盡虚ヨリカゾヘテ算  
 外ヲ今日子ノ時ノ星禽トス 譬ハ今年乙丑  
 ノ元積一百三十三萬零三百分十二ヲ乘シ一  
 千五百九十六萬三千六百分禽周ヲ以コレヲ  
 除キ商ヲ不盡十六虚ヨリカゾヘテ算外  
 翼火蛇ヲ天正冬至子ノ時ノ星禽トス  
 ○月禽時禽ハ右ニ所謂算法ニ及ズ  
 テ知ヘ

其故ハ月禽ハ七年毎ニ初ニカヘテ時禽ハ  
 七日毎ニモトニカヘルナリ故ニ月禽ハ太陽  
 直年ハ正月角ヨリ起シテ順ニ元ハ二月氏ハ  
 三月トカツフヘシ第二年ハ十二ヲ一度加ヘ  
 角ヨリカゾヘ第三年ハ十二ヲ再加ヘ第七年  
 ニイタリテハ十二ヲ六タビ加ヘテ角ヨリカゾ  
 ヘ算外ヲ用ルナリ右禽周ニ滿レハコレヲ去  
 テアマリヲ角ヨリカゾフルナリ時禽ヲ知モ  
 亦右ニ同シ太陽直日第二日ハ十二ヲ一度加  
 第三日ハ再加ヘ禽周二滿レハコレヲ去テ餘



虚ヨリカゾヘテ算外ヲ其日ノ子正ノ星禽ト  
スルナリ

運氣論與算法俗解卷之下終

享保十二丁未歲林鐘吉日

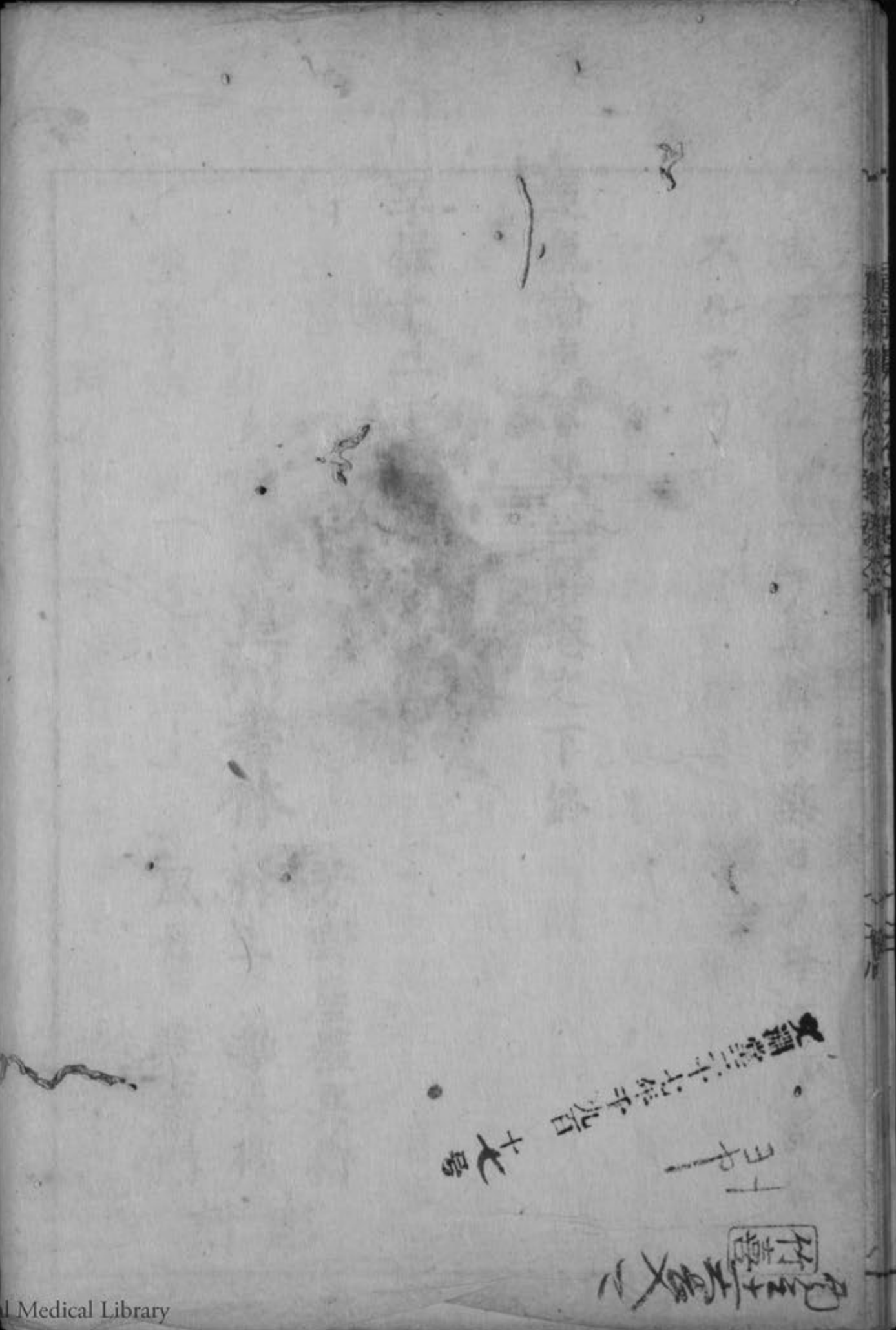
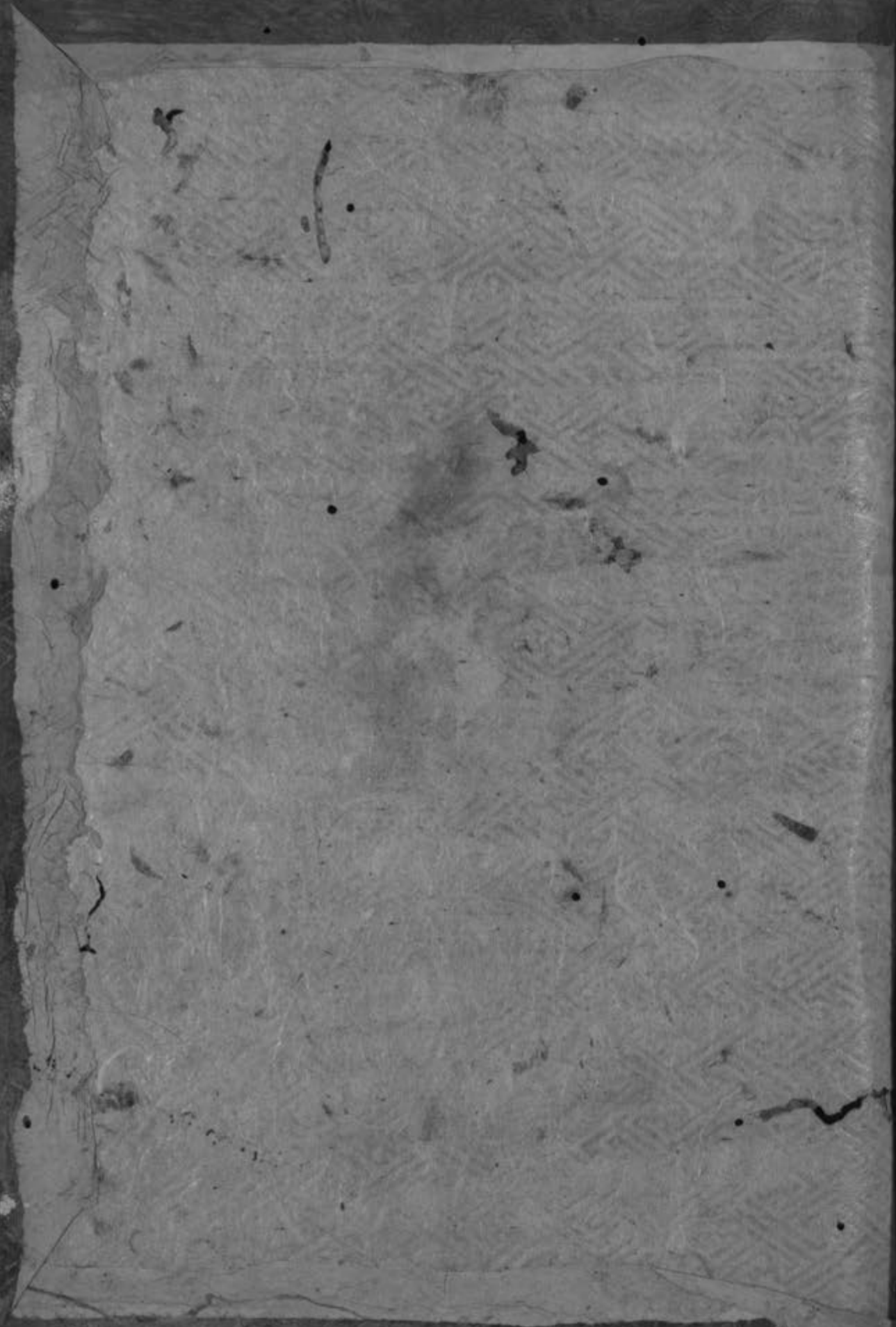
皇州書林

芳野屋權兵衛  
村上勘兵衛

風月

刻彫

其好六員合六子半每三味二女八下保會八



大正十一年七月十七日  
十七日

竹喜  
大正十一年七月十七日



Kitasato Memorial Medical Library